

市民病院だより

带状疱疹について

内科医師 菅 謙司

今回は、带状疱疹という病気についてお話しします。

昔は「胸巻き」とも呼ばれ、体を一周すると死んでしまうともいわれていましたが、実際には一周することはなく、体の片側だけに痛みを伴う水疱性発疹ができる病気です。

水痘・带状疱疹ウイルス（varicella-zoster virus：VZV）が原因となります。このウイルスに初感染すると水痘（水疱瘡）として全身に水疱性の発疹が出現します。通常、自然に治癒しますが、ウイルスは完全には排除されず三叉神経節や脊髄後根神経節などに潜んでいます。このウイルスがストレスや過労などで免疫力が低下すると再活性化し、带状疱疹として発症します。若い人にも見ら

れますが、50歳以降で多く発症しています。特徴としては、神経節から起こるため片側の知覚神経の分布に一致して疼痛、発疹が出現します。

最初は皮膚の知覚異常や疼痛のみですが、数日で赤い発疹が認められるようになります。徐々に数が増え発疹の中央部に水疱が認められるようになります。2週間程で痂皮（かさぶた）化して3週間ほどで治癒します。体のどこにでも起こりますが、体幹部や三叉神経節にや

り、美容的な問題（四谷怪談のお岩さんがこの部分の带状疱疹ではないかという説もあります）の他にも角膜炎など眼病変を伴うこともあり、注意が必要です。また、最近の報告では、带状

疱疹後しばらくは脳梗塞のリスクが高くなるともいわれています。これはウイルスの活性化により血管に炎症が起こることが関与していると考えられています。

先に述べたように原則、片側に起こる病気ですが、非常にまれに複数の離れた神経分布領域に生じることもあります。この場合は悪性腫瘍の合併や免疫力が強く低下していることが考えられ、詳しく検査を受ける必要があります。

治療としては、抗ウイルス剤（アシクロビル、バラシクロビルなど）の内服や重症例では抗ウイルス剤の点滴を行います。疼痛に対しては鎮痛剤の内服を行います。初期に治療を開始すればほとんどの例で速やかな改善が認められます。ただ、治療開始が遅れたり重症例では、皮疹が消失した後も疼痛（带状疱疹後疼痛）が残る問題となることがあります。

予防としては、水痘ワクチン接種が効果があることが示されています。以前は、保険適用が

なく、自費での接種でしたが、2016年3月に改訂があり、効能・効果に「50歳以上の者に対する带状疱疹の予防」が追加されています。ただし、弱毒化生ワクチンであるため、明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する人、および免疫抑制をきたす治療を受けている人に接種してはならないとされています。体の片側に何か変な疼痛が出現し、数日後に皮疹が出てきた場合は带状疱疹の可能性があります。早めに医療機関を受診しましょう。



ゴールデンウィーク 期間中の外来診療のお知らせ

4月29日（月・祝）

内科・外科……………通常診療
脳外科……………午前のみ
※専門外来……………休診

5月2日（木・休）

内科・外科・小児科…通常診療
脳外科……………午前のみ
※専門外来……………休診

木曜日の夕方診療は行いません。詳細は電話またはホームページでご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>